

# 山鹿市民医療センターが 担う役割について

平成30年8月 山鹿市民医療センター

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 目指す姿

良質な医療を安定的かつ継続して提供できるよう、地域の中核的病院として医療機能の充実に努め、市民に親しまれ、地域に開かれた信頼される病院を目指します。

### 基本理念「地域住民の生命と健康への貢献」

市民医療センターは、鹿本医療圏の地域医療を確保するうえで不可欠な存在であり、地域の急性期医療を担う医療機関として地域住民の生命と健康を守るべく、地域住民をはじめ医療関係者からの期待に応えていかなければなりません。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 基本方針

- (1) 患者さま中心の信頼される医療を行います。
  - ・ 患者さまの目線に立ち、患者さまの価値観を尊重する医療の提供
  - ・ 医療安全対策等の充実による安心・安全な医療の提供
- (2) 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します。
  - ・ クリティカルパスの活用やチーム医療の推進等による質の高い医療の提供
- (3) 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します。
  - ・ 地域医療機関との連携強化
  - ・ 地域包括ケアシステムの実現に向けて保健、医療、福祉の連携の推進
- (4) 研修、研鑽に努め、医療レベルの向上を図ります。
  - ・ 地域医療機関も含めた医療従事者研修等の充実
- (5) 健全経営に努めます。
  - ・ 安定した病院経営、経営基盤の確立による健全経営

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 医療法許可病床数

201床（一般197床、感染症4床）

### 標榜診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、外科、消化器外科、  
乳腺外科、産婦人科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、小児科、  
泌尿器科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、腫瘍外科、緩和ケア内科、腫瘍内科  
計 20診療科 他に総合診療科、特殊専門外来

### 医療機関指定

熊本県肝疾患専門医療機関、熊本県肝炎治療指定医療機関（H27.10.1）

熊本県指定がん診療連携拠点病院（H24.11.16）

熊本DMAT指定病院（H24.3.27）

日本医療機能評価機構認定病院〔3rdG:Ver.1.1〕（H29.3.27）

地域医療支援病院（H22.11.4）、開放型病院（H18.7.1）

臨床研修指定病院〔協力型〕（H16.3.31）

第二種感染症指定医療機関指定（H11.4.1）、災害拠点病院（H8.12.27）

病院群輪番制病院・救急病院認定（S41.1.27）

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 市民医療センターが担う政策医療（5疾病5事業）

5疾病のうち、主に3疾病（がん、急性心筋梗塞、糖尿病）を担っています。

がん	熊本県指定がん診療連携拠点病院として、がんの診断と治療、更に緩和ケアに至るまで質の高い診療に取り組んでいます。特に、消化器がんは高度な診療を行っています。 今後は、血液のがんなど対象の拡大、スタッフの充実が課題です。
脳卒中	専門医不在ですが、救急患者の搬入があります。 今後は、地域での24時間対応の整備と緊急的措置（外科手術や血管内治療）の検討が課題です。
急性心筋梗塞	常勤医2名体制となり、緊急対応は改善傾向にあります。熊本大学の非常勤専門医による待機的心臓カテーテル検査・治療を行っています。心血管疾患急性期拠点病院の指定を受けました。 今後は、当院での24時間緊急対応の整備が課題です。
糖尿病	専門医を中心に、糖尿病対策チームが積極的に診療に取り組んでいます。 今後は、周囲医療機関との連携パスの運用が課題です。
精神疾患	専門医不在ですが、精神疾患を有する入院の実績があります。 今後は、精神科医の往診など連携が課題です。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

5事業のうち4事業を担っています。

救急医療	初期対応の医師を明確にして、内科、外科、整形外科医を待機として2次救急としての役割を担っています。また、職員対象に、ICLS、BLS研修を行い、救急対応の充実に努めています。 今後は、救急患者の受入体制の拡充と、時間外手術の検討が課題です。
災害医療	災害拠点病院として院内の整備、関係機関との連携や研修に努めています。 今後は、DMATチーム数の増加、地域を含めた災害対応訓練が課題です。
へき地医療	—
周産期医療	妊娠期からの適切な健康管理及び安全に出産できる体制を確保しています。
小児医療	非常勤医による対応であり、入院診療ができない状況です。 今後は、常勤医確保の予定もあり、時間外診療の可否が課題です。

その他

感染症医療	第二種感染症指定医療機関として県北の中心的役割を担っており、保健所との連携も定期的に行っています。
予防医療	健康志向の高まりにより、今後ますます重要性が高まる方向にあることから、健診ドック体制の充実に引き続き努めます。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 職員数

平成30年4月1日現在

職 種		常勤	非常勤	計	職 種		常勤	非常勤	計
医師		26	14	40	看護部門	看護師	148	14	162
医療技術員	薬剤師	7		7		准看護師	10	7	17
	検査技師	10		10		助産師	6	2	8
	放射線技師	5		5		看護補助者		26	26
	理学／作業療法士	9		9	事務	社会福祉士	5		5
	栄養士	4		4		診療情報管理士	1		1
	臨床工学技士	2		2		事務	15		15
	視能訓練士	1		1		その他		20	20
					合 計	249	83	332	

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 山鹿市の将来推計人口（平成22年～平成47年）

	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	2025年 (平成37年)	2030年 (平成42年)	2035年 (平成47年)
0～14歳	6,885	6,173	5,503	4,918	4,461	4,178
15～64歳	31,332	28,372	25,747	23,811	22,357	20,809
65歳以上 (内、75歳以上)	17,174 (10,016)	18,226 (10,492)	18,791 (10,493)	18,487 (11,224)	17,595 (11,664)	16,690 (11,431)
総数	55,391	52,771	50,041	47,216	44,413	41,677

※ 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）より

※ 熊本県2025年医療需要に基づく流出状況より

将来の山鹿市（鹿本医療圏）の人口推計では、平成37年は47,216人で、平成27年度に比べ5,555人（10.5%）の減少が見込まれますが、75歳以上の後期老年人口においては、逆に732人（7.0%）増加の11,224人となり更に高齢化が進んでいくことが予想されています。

また、平成37年の患者動向では、鹿本医療圏の患者20%以上が熊本医療圏への流出が予想され、中でも高度急性期では46%、急性期においても28%の流出が予想されています。



## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### (1) 地域医療構想を踏まえた市民医療センターの果たすべき役割

市民医療センターは、救急告示病院、災害拠点病院、感染症指定医療機関、熊本県指定がん診療連携拠点病院の指定など、医療圏における中核的病院としての役割を引き続き担います。

- ①救急医療体制の充実に努めながら、急性期医療を中心とした医療の提供
- ②公立病院として小児医療や周産期医療の展開
- ③災害医療への取組み
- ④保健、医療、介護、福祉を一体的に推進する地域包括ケアシステムへの貢献
- ⑤地域医療支援病院として医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携による地域完結型医療の構築



患者流出を抑え、地域の中核的病院としての役割を担います。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

急性期医療を担う地域の中核的病院として、患者様が退院後も切れ目のないケアを受けられるよう、緊急時の患者受入れや在宅療養への移行支援など、後方支援病院との連携も推進していきます。

①市内医療機関、保健、福祉、介護機関との連携強化

②円滑な入退院、及び転院の調整による地域連携の強化、医療や福祉に関する情報の提供・相談・支援



地域における在宅医療を含む医療、福祉及び介護の連携体制「地域包括ケアシステム」の一端を担います。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### (3) 地域医療支援病院としての役割

地域全体で患者をケアするような医療連携体制の構築が一層求められることから、地域医療の中核となる地域医療支援病院として、地域完結型医療を目指します。

①急性期医療における主導的な役割

②地域医療機関と診療情報の共有

#### (4) 熊本県指定がん診療連携拠点病院としての役割

鹿本地区のがん診療における病病連携、病診連携の協力体制を構築し地域全体で切れ目のない診断・治療と緩和ケアの提供を目指し環境整備を行っていきます。

①5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）を中心とした、がん診療連携拠点病院として地域の医療機関との連携強化

②質の高い治療を提供するため、遠隔病理診断の環境整備を目指す。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	6	6	未記入
急性期	140	140	未記入
回復期 (地域包括ケア)	38	38	未記入
慢性期 (緩和ケア)	13	13	未記入
その他	0	0	未記入
合計	197	197	未記入

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 2018年 (30年5月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、外科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、小児科、泌尿器科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、腫瘍外科、緩和ケア内科、腫瘍内科 全20診療科	現状維持	地域の中核的病院の役割を果たすため必要
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

### 3 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点 2018年 (30年3月時点)	2025年
①病床稼働率	75.4%	80.0% 【2021年（平成33年）の目標値】
②紹介率	58.0%	64.0% 【2021年（平成33年）の目標値】
③逆紹介率	75.0%	75.0% 【2021年（平成33年）の目標値】

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

##### (取組み)

##### ○医師等の人材確保

安定した医療の提供のためには、医師確保が最大の課題と捉え、熊本大学医学部附属病院を中心に引き続き粘り強い派遣依頼と、熊本県ドクターバンクやホームページ等の医師募集サイトの充実を図ります。

また、積極的に研修医や医学部学生の実習受け入れを行います。

さらに、看護師の確保やコメディカルの充実に努めます。

##### ○地域医療連携の強化

市内医療機関、保健、福祉、介護機関との連携を図るとともに、円滑な入退院、及び転院の調整による地域連携の強化、医療や福祉に関する情報の提供・相談・支援に努めます。

##### (課題) 患者流出

## 4 その他特記事項

- 第7次鹿本地域保健医療計画において求められている、機能の充実に努めます。